

第21回 運営推進会議

2026年8月19日(水)

13:30～

デイサービス若芝



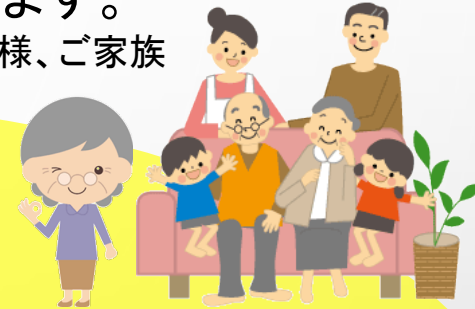
デイサービス若芝

本会議の趣旨



利用者様(ご家族様)、市町村職員、地域住民の代表者等に対し、提供しているサービス内容等を明らかにし、地域に開かれたサービスとすることで、サービスの質の確保を図ることを目的としています。

利用者様、ご家族



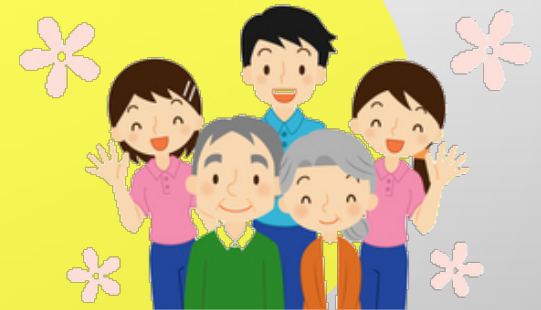
地域の方々



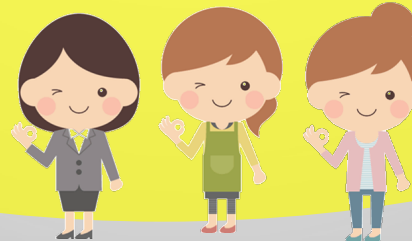
三島地区(芝本町)



デイサービス若芝



三島市(包括)、有識者



定期的(半年に1回)に開催して、情報を共有したり、意見交換をしたりすることで、地域全体で介護サービスの質の向上を実現していく。

デイサービス若芝の現況

【開設】

■平成24年1月1日認可➡令和6年1月1日認可更新

- ▶地域密着型通所介護（要介護認定者）
- ▶介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業対象者）

1日のご利用定員 …… 10名

サービス提供時間 …… 9:15～16:30

※お休み：日曜、年末年始

〒411-0857

静岡県三島市芝本町11-32

TEL:055-983-0808

FAX:055-983-0811

<https://www.com-work.jp/waka/>

【姉妹事業所】

デイサービス井福来／デイサービス山風木

居宅介護支援事業所いぶき（ケアマネ）

関係事業所のご紹介



令和6年6月1日認可

★デイサービス井福来／居宅介護支援事業所いぶき(ケアマネージャーが常駐)

→本部機能も担っております

→定員12名の認知症対応型デイサービス

→ケアマネージャー4人体制で(主任ケアマネが3名)

※移転から2年が経過しました



平成24年1月1日(令和6年1月1日認可更新)

★デイサービス若芝(地域密着型通所介護)

→芝本町(商店街)という環境は生活感を強く感じられます。

→認知症ケアの専門集団を目指して頑張っています。



平成30年3月1日(令和6年3月1日認可更新)

★デイサービス山風木(認知症対応型通所介護)

→認知症の利用者様に特化した事業所

→定員12名



デイサービス若芝の稼働状況

＜ご利用実績＞

ご登録人数:24名

◆7月のご利用実績

平均稼働率＝89%

※入所もあって利用者様の入れ替わりがありました

＜ご利用予定＞

月	火	水	木	金	土
10名	10名	7名	10名	7名	8名

山風木メンバーとも協力し、利用者様の多様なニーズに応えられるように頑張っています！

若芝らしさ！を常に意識して活動を考えています。
 ⇒散策、買い物、美術展外出など地域へ出かける
 ⇒地域の中での「若芝」という存在意義を発信
 ⇒姉妹事業所との連携力(特に山風木)

要支援1	0名
要支援2	0名
要介護1	12名
要介護2	6名
要介護3	7名
要介護4	2名
要介護5	1名

よりレベルアップを！

近隣事業所(山風木)との各種共有による質の向上取り組み中！

活動や事業所内環境の見直し中！

5S活動への取り組み中！

■体制 人手不足はどこも同じですが、人材確保・育成の取組み実施

	デイサービス井福来	デイサービス若芝	デイサービス山風木
相談員	専任1名、兼務者1名	専任1名、兼務者1名	専任1名、兼務者1名
介護職	専任4名、兼務者1名	専任3名、兼務者1名	専任4名、兼務者1名
看護師	1名	1名	2名
ケアマネージャー	専任4名、兼務者1名	—	—

国家資格(介護福祉士)⇒取得支援！

※介護職の国家資格保有率90%

活動の振り返り



季節の変化・地域の変化・利用者様の変化、様々な変化と向かい合いながら日常を作り上げてきました！

活動

各種活動

源平衛川散歩、個別活動(フラワーアレンジメント・絞り染め・絵手紙)

外出

三島生涯学習センターへ美術展見学、お花見、梅まつり見物、清澄緑地散策、龍沢寺見学

イベント

47都道府県銘菓企画、いろは喫茶スタート！、各種季節行事

情報発信

ブログによる活動発信、ケアマネさんなどへの情報発信

スタッフ育成・採用強化

各種研修 個々のステップアップ 新人採用、山風木・若芝の協働(Co-Working)

ICT化、設備の更新

PC、タブレットなどのIT機器の増設・交換、AI活用への取り組み、防災用品の追加(ランタン、テント、非常用トイレ、最低3日分の水、食料の備蓄)

それぞれの生活と向き合う



＜個々の環境は千差万別＞

提供サービスだけで完結することなく生活の実態にもアンテナ高く！

概 要

認知症で独居

衣食住の確保はもちろんのこと人権という視点もとても重要

老々介護

サポートに入るご主人(奥様)も無理ができない。ご夫婦で認知症のケースも

娘・息子が別居・遠方在住

ご子息の生活も大事にすべきです。同居や頻繁な訪問が難しい状況で利用者様の生活実態が正しくつかみ切れなかったり、困りごとの温度感がズれてしまうこともあります

キーパーソンとの関わり(遠縁だったり、キーパーソンも余裕がなかったり)サポートの中心となる方が、曾孫さんだったり、甥っ子さんだったりする場合は生活習慣の把握や双方の心情的な隔たりなど難しいこともあります

心身に別の課題

既往病を持たれている方や脳梗塞による麻痺、精神疾患なども考慮した日々の対応が求められます

認知症(BPSD)と向かい合う



＜忘れてしまう！の先にあるのは個性です＞

認知症という病で忘れてしまうことがあっても、その結果として不安になる！外に出かけたくなる！思い出したように怒り出す！etc
というような行動は、その方の人生観や個性が要因になることが多いです。

取り組む姿勢

大人数での空間が苦手な方

和室などを活用して小集団で落ち着ける時間を作る

仕事ひとすじで生きてこられた方

時間が空くと居心地がわるくなってしまうので、何かをしている充実感を感じられるように役割や日課を持っていただく

学校の先生、お花の先生などをされてきた方

一緒にいる人たちに少しでも上手になってもらいたい。教えてあげたいという気持ちに応えながら、教えてあげるといふ誇りも感じてもらう

体が弱かったりして悲しい記憶が強く残ってしまっている方

悲しかった出来事への共感をしつつ、今そこにある喜び・楽しみも一緒に共有して共に喜ぶ

家族をととても大事にされてきた方

ご家族の名前なども共有させてもらい、家族の思い出をたくさん話してもらおう。一方で家族の心配をせずに安心してもらうようなアプローチもする

若芝の目指すところ



■ご自宅での様々な課題

利用者様・ご家族の生活をご支援するために
事業所の中だけに留まらず全体観を持って関わる

■認知症についての学びを深める

それぞれの利用者様の困りごとに対応する
力を職員一丸となって高めていく

■ケアマネジャーその他関係職種と連携

若芝での気づきを積極的に発信し、
チームで関わっていく。

■加えて同じような課題は、

地域の課題ととらえ、関係各所に発信をしていく

新しい認知症観

＝これまで(～2025年)＝

たくさんの人が認知症になる！大変だ！みんなあらかじめ心の準備を！

という啓蒙活動をしながら支援体制の構築を進めてきました。

【結果】世の中の多くの人が認知症という病を知ってくれた

＝これから(2025年～)＝

認知症基本法(認知症基本計画)

もっと正しく認知症を理解してもらおう！

学校教育／社会教育／専門職養成／認知症の方からの発信

<新しい認知症観>

「認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」

＝>もちろんご家族(支援者)も同様に自分らしく暮らし続けることができる

認知症の時期による困りごとの変化

